

平成 3 1 年度（令和元年度）

豊郷中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

温かな人間関係のもと、豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒の育成

- | | |
|--|--|
| <p>(1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心身ともに健康で気力あふれる生徒 ・ 自主的に学び創造性にとむ生徒 ・ 思いやりがあり心豊かな生徒 ・ 勤労と責任を重んじ実践力のある生徒 | <p>(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心身を鍛える生徒 ・ 自主的に学ぶ生徒 ・ 思いやりのある生徒 ・ 最後までやり抜く生徒 |
|--|--|

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 一人一人の生徒が希望をもって生き生きと活動している学校
- 保護者・地域から信頼され活力のある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のスローガン

「感動のある学校 豊郷中 ～通じ合う心 粘り強い努力～」

「豊郷地域学校園教育ビジョン」（とよさとの学び）

○「豊かな郷の生き生きとした子どもたち」

〔重点課題〕

- ・ 分かる授業の実践や学習態度の育成，学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・ すべての教育活動を通して豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・ 健康や体力への意識を高め健やかな心と体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・ 家庭・地域との連携・協力を深め活気あふれる学校づくりに努める。

◇ 頑張る学校プロジェクト名 「感動プロジェクト」

(1) 特色ある学校づくりとして目指すもの

温かな人間関係のもと豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒を育む学校づくり

(2) 育てたい資質・能力

- ア 自分で課題を見つけ、主体的に取り組み、話し合い等により考えを深め、よりよく問題を解決する能力
- イ 規範意識を持ち、思いやりの心や感動する心などの豊かな人間性や社会性をもつこと

(3) 具体的取組

- ア 授業において、互いを認め合い励まし合う学習活動の中で、生徒の能動的・主体的学びを引き出す工夫をする。
- イ 学級活動や学校行事・生徒会活動の充実，部活動の推進，タイム着席の実施等を通して、自ら考え判断し行動する場をより多く設け、主体的態度や自立・自律の態度を育成し、生徒のもつ多様な資質・能力の向上を図る。
- ウ 宮っ子チャレンジウィーク，地域の文化財や自然（瓦塚古墳・北山古墳等）を守る活動，地域行事への参加，各種ボランティア活動等を充実させ、自己の在り方を見つめ、よりよく生きようとする態度や地域を愛する心を育てる。
- エ 教科指導，道徳，学級活動，生徒会活動，学校行事等を関連付け，生徒の学びを深める。
- オ 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して，小中一貫教育や地域学校園の取組を進める。
- カ 緑化・諸掲示・美術・音楽・言語・生活習慣等の教育環境を，教科学習・生徒会活動・学級活動等を通して整備・充実していく。
- キ 質の高い文化・芸術に触れる機会や様々な人々との交流活動等を通し豊かな感性や思いやりの心を養う。
- ク 教科等への指導における学校図書館の活用とともに，家庭との協力並びに地域学校園全体での連携のもと，学力向上の取組を推進する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法，学校教育法などの基盤的法律の理念の下，学校教育法施行令，学校教育法施行規則，中学校学習指導要領等に示された規準及び栃木県教育行政基本方針，宇都宮市学校教育の推進計画等の示すところに従い，公教育の自覚のもと全教職員の理解と協力により，本校教育目標の達成を目指して教育課程を編成する。

- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する。
- (3) 道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う。道徳科の時間だけでなく、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行う。また、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実する。指導内容が、生徒の日常生活に生かされるように、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意する。
- (4) 体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科、及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努める。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎的能力が培われるよう配慮する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】・ミドルリーダーを核とした組織の活性化とともに、校内業務の精選化・効率化を図る。
○地域と連携した諸活動の推進
- 【学 習 指 導】○「とよさとの学び」に基づいた教員の授業力向上の推進並びに家庭・地域と連携した学力向上
- 【児 童 生 徒 指 導】○認め励ます教育の一層の推進による豊かな心や社会性をもった生徒の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○安全に留意し自らの健康・体力の向上に励む生徒の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 学習課題の提示（「はっきり」）やふり返り（「すっきり」）の設定を工夫し、生徒が主体的に学ぶ授業の実践に努める。 ② 生徒一人一人が自分の考えを持つ（「じっくり」）ことによって、発見のある授業づくりに努める。 ③ 生徒の対話を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導の充実を図る。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 91.7%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 学習課題を提示する「はっきり」、自分の考えを持つ「じっくり」、ふり返る「すっきり」を全教科で統一して行い、授業形態の共通化を図る。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 肯定的回答 85%以上	① 「特別の教科 道徳」の充実のために、道徳科の授業づくりとして、「考え、議論する道徳」を目指し、授業改善を図る。 ② 豊かな感性を育む機会の充実のため、朝の学習時の読書活動「朝読」を取り入れるとともに、学校図書館司書と連携した読書活動に努める。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 91.0%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 「道徳」の授業改善が日常的に図れるよう、各学年の道徳係を中心に、各担任へ資料等の提供ができるようにする。

す 生 徒 の 姿	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 肯定的回答 85%以上	○① 時間を守る、身の回りの整理整頓や状況に応じた礼儀・態度など基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、登下校時の交通マナーの徹底に取り組む。 ② タイム着席や語先後礼式あいさつ、黙動等の本校独自の取組を、教職員が率先垂範の姿勢で行動し、生徒が自立的に取り組めるよう、指導の充実を図る。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 93.4%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 毎週、生徒指導部会を開催し、各学年の生徒の状況を共有し、同一歩調で指導の充実を図れるようにする。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 肯定的回答 85%以上	○① 校内外でのあいさつをさらに充実したものにするるとともに、地域協議会や小学校と連携して、地域学校園全体であいさつ運動をさらに展開していく。 ② 校内のあいさつ運動や、小中合同のあいさつ運動に、教師が率先垂範で取り組んでいく。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 96.5%・94.4%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 校内のあいさつ運動、小中合同のあいさつ運動など、機会を捉え、意識化、習慣化を図る。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 「挑戦する」活動、「がまんして」やり続ける活動、「あきらめず」努力する活動を意図的に設定し「感動のある学校」を目指す。 ② 生徒のよさや努力を認め、意欲を高める指導の充実を図る。	A	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 88.0%・88.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 様々な活動の中に、意図的に、「挑戦」「我慢」「諦めない」等のテーマを設けて生徒に取り組ませることで、達成感を味わわせ、生徒の意欲を喚起する。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」 肯定的回答 85%以上	○① 健康診断・新体力テスト等の結果を参考にして、体位・体力の調和と均整がとれるよう各運動領域での補強運動の工夫をする。 ② 給食の時間における食に関する指導の充実のため、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化について、教科等において関連を図りながら指導する。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 96.9%・97.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 保健体育の授業や運動部活動では、健康診断・新体力テストの結果を受け、体力の向上を図る活動を取り入れる。給食、家庭の授業を中心に、食に関する指導の充実を図る。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 (教職員)「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 「宮・未来キャリア教育」の充実を図り、生徒一人一人が将来の夢や目標を持つことができるよう、学級活動等の指導を行う。 ② 地域の清掃活動、農業体験活動を通して、地域の方々と世代を超えて協働することにより、社会に参画する力を育む。	A	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 88.0%・88.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 3年間を見通した計画的なキャリア教育ができるよう、新たに導入されるキャリアパスポート等を活用し、学級活動の授業の充実を図る。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 肯定的回答85%以上	① 英語科教員の共通理解のもと、英語の授業では、1年時からすべて英語での指示等を行い、積極的に英語を使う態度を養う。 ② 給食時にALTと食事をする機会を設け、日常的に英語に親しむ機会を作る。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ87.5%・94.3%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 英語科を中心に、ALTの活用を計画的に行う。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、宇都宮の良さを知っている」 肯定的回答85%以上	① 宇都宮の歴史、文化、産業について理解を深めるため、郷土を資料や題材とした授業の展開を進める。 ○② 古墳愛護会や市文化課とともに活動することを通して、生徒の意識を地域や社会に向けさせた広い視野を育てる。	A	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ78.6%・72.2%で、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 令和3年度からの「宇都宮学」の実施に向け、学年主任を中心に準備に当たり、指導の充実を図る。
A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 (生徒)「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している」 肯定的回答85%以上	① 情報社会に対応した情報活用能力を育成するため、「情報モラル教育」の充実を図り、「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」に基づく、発達段階に合わせた体系的・継続的指導を行う。 ② さまざまな教科で、タブレット型パソコンを活用した授業を実践する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答率は73.5%であり、数値目標に達しなかった。教職員の肯定的回答率は88.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒がICT機器を利用する授業を各教科で積極的に実践する。
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 (地域住民)「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 肯定的回答85%以上	① 体育祭において高齢者専用席を設け、高齢者とふれあう機会を設ける。 ② 生徒会専門委員会や吹奏楽部の高齢者施設訪問活動を継続的に実施する。	B	【達成状況】 地域住民の肯定的回答率は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 高齢者施設訪問活動を継続的に実施する。家庭科の保育の授業での保育体験を地域の幼稚園、保育園と連携して行う。
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 肯定的回答85%以上	① 生徒会活動を通して、リサイクル活動を継続的に実践することで、「持続可能な社会」への意識を高める。 ② 様々な教科の題材として、意図的に環境問題、エネルギー問題等を取り上げ、自分たちの問題として考える素地を養う。	A	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ71.2%・33.3%で、数値目標に達しなかった。生徒と教職員では、肯定的回答率に大きな差があった。 【次年度の方針】 各教科の題材として、今まで学習している環境問題、エネルギー問題等を取り上げ、持続可能な社会へと関連づけながら、生徒の意識を高める。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 (教職員)「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」 肯定的回答 85%以上	① 生徒一人一人の実情を把握し、特別な支援を必要とする生徒に対して、その実態に応じた支援ができるよう、特別支援教育コーディネーターを核とした連携を密にする。 ② 特別な支援を必要とする生徒についてのケース会議等を持ち、具体的な支援の形を職員、保護者と共有する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 97.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを中心として、担任とスクールカウンセラー、メンタルヘルスマネージャーとの情報共有が、さらに図れるようにする。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 (生徒・保護者)「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答 85%以上	① 生徒一人一人に丁寧に向き合うとともに、いじめの定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。 ② 授業、部活動はもちろん、日常生活の中で、どんな些細なことでも、生徒・保護者に対応し、いじめの早期発見、早期解決を図る。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答率は 95.4%であり、数値目標に達した。保護者の肯定的回答率は 71.5%であり、数値目標に達しなかった。生徒と保護者では、肯定的回答率に差があった。 【次年度の方針】 いじめ防止への取組を保護者に伝達し、保護者の理解と協力が得られるようにする。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め合うクラスをつくっている」 肯定的回答 85%以上	① 新たな不登校を生まないため、「挨拶」「励まし」「賞賛」など、身近な言葉かけを大切に学級経営を行う。 ② どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校を目指す。	B 【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 95.2%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒が、自己存在感を感じられる活動や言葉かけを意図的に行う。不登校の予兆のある生徒に対して、速やかな対応をする。
	A16 教職員は、外国児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 (教職員)「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」 肯定的回答 85%以上	① 生徒が外国籍の場合だけでなく、保護者が外国籍などの場合も含めた支援を行えるように、実態の把握に努める。 ② その生徒、家庭が必要としている支援を適切に行い、将来的には自立していける方向性を持たせる。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 97.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒、家庭が必要としている支援を適切に行うとともに、外部機関との連携を図り、支援の充実を図る。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 (生徒・教職員)「私は今の学校が好きです」 肯定的回答 85%以上	① 心の通じ合いや粘り強い努力を大切にして、感動のある学校づくりを推進する。 ② 学校行事では、生徒の自発的・主体的活動を積極的に取り入れ指導に当たる。	B 【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 90.6%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒の自発的・主体的活動を積極的に評価する学校文化の醸成を図る。

A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「先生方は、授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 肯定的回答 85%以上	○① 授業において、互いに認め合い励まし合う学習の場を作るよう努力し、毎時間の目標と評価を関連づけた指導を徹底する。 ② 「分かる楽しい授業」のために体験的活動を取り入れた授業展開を工夫し、生徒一人一人の学習意欲の向上を図り、難易度の高い課題への取り組みを行う。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答率は、それぞれ 92.3%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 「分かる授業」に加え、生徒一人一人の学習意欲の向上を図れるよう、授業の展開を工夫する取組を、全教科で実施する。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員)「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 学校の組織力を強化し、生徒への指導・支援の充実を図るため、多様な専門スタッフとの連携を密にする。 ② チームとしての学校の力を最大限に生かせるようにするため、スタッフの専門性を発揮できる場を設定するなど、管理職のマネジメントのもと、体制を整える。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 97.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒への指導・支援の充実を図るため、職員の能力、特性が発揮されるような体制(校務分掌)づくりをする。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員)「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 時間外勤務の削減に向けて、業務の精選・見直しなど、校務分掌の刷新を図る。 ② 「宇都宮市部活動方針」に基づき、部活動の適正な運営に努める。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 77.8%であり、数値目標に達しなかった。昨年度と比較すると 18 ポイント落ち込んだ。 【次年度の方針】 学校行事において、内容の見直しを行い、行事の削減、廃止を行う。部活動では、部活動数の見直しを行い、顧問の複数配置を充実させる。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 (教職員)「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 肯定的回答 85%以上	○① 計画的に運営委員会、各部会を実施し、小学校との連絡・調整を図り、様々な合同行事を開催する。 ○② 相互の乗入授業を行い、相互理解に努めるとともに、情報交換の場として活用する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 91.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 継続可能な範囲で、小学校と連携を図る。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 (生徒)「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 肯定的回答 85%以上	① さまざまな体験学習に地域の方々の協力を得ることで、地域の教育力を生かす取組の充実を図る。 ② 「食農体験」やキャリア教育における「職業人に聞く」「宮っ子チャレンジ」など、地域、企業の方々の協力を得ることで、特色ある教育活動を展開する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答率は 84.5%であり、数値目標にわずかに達しなかった。 【次年度の方針】 体験学習の振り返りやキャリアノートの活用により、学習を生徒個人内に蓄積させ、指導の充実を図る。

本校の特色・課題等	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員・保護者・地域住民)「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 肯定的回答 85%以上	① 家庭への積極的な情報発信と相互理解を推進するため、学校の取組や生徒の様子の情報発信に、各種通知や学校 HP の利用、保護者会や三者懇談の機会を活用する。 ② 魅力ある学校づくり地域協議会との連携を強化し、保護者や地域住民の意見を的確に学校運営反映させる。	B	【達成状況】 教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率は、それぞれ 97.2%・88.2%・100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 情報発信を活発にし、保護者、地域住民から協力を得られる学校をさらに目指す。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 (教職員・保護者)「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 肯定的回答 85%以上	① 月 1 回の安全点検において、修繕要望等が出されたものは、速やかに修理し、安全が保たれるようにする。 ② 生徒が多く活動を行う箇所については、日常的な点検を行う。	B	【達成状況】 教職員・保護者の肯定的回答率は、それぞれ 91.7%・90.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 日常的な施設の点検に加え、危険が予測できるものについては、積極的な安全対策を施す。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 (教職員)「生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」 肯定的回答 85%以上	① タブレット型パソコンをはじめとする ICT 機器の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進し、生徒の情報活用能力の育成を図る。 ② 学校図書館の学習センター・情報センターとしての機能を持たせるため、図書館司書と連携し、必要な図書を充実させる。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 88.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ICT 機器の利用に加え、学校図書館を学習センター・情報センターとして利用した授業を実践する。
	B1 ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化・重点化により教職員の働き方改革を推進する。 【数値指標】 (教職員)「学校は各主任・主事を核として、校内組織の活性化が図られている」 肯定的回答 85%以上	① ミドルリーダーを校内組織の中核に据え、若手教員との意思疎通を円滑にし、校内組織の活性化を図る。 ② 校内組織の中で、OJT を通して、若手職員の育成を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ミドルリーダーを核とした校内体制を整備し、その中で若手教員が OJT を通して成長できるシステムの構築を図る。
	B2 教員は、授業実践を通して授業力向上を目指し、積極的に授業公開をしている。 【数値指標】 (教職員)「教員は、授業実践を通して授業力向上を目指し、積極的に授業公開をしている」 肯定的回答 85%以上	① それぞれの教員が、授業力の向上を目指し、公開授業を積極的に行う。 ② 参観者からの授業に関するコメントを参考に、さらなる授業改善に臨む。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 88.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 授業公開に加え、教科ごとの授業研究会を実施し、授業力向上を目指す。

B3 教員は、授業の工夫・改善を図るため、同僚の授業を積極的に参観している。 【数値指標】 (教職員)「教員は、授業の工夫・改善を図るため、同僚の授業を積極的に参観している」 肯定的回答85%以上	① 同僚の授業を参観し、授業改善の方策を探る。 ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善を図る。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は80.6%であり、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 授業公開の方法を変更し、参観しやすい環境を作る。
--	---	----------	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 評価項目の大幅な変更があったが、ほとんどの項目で高い肯定的回答が得られている。
- 教職員評価の結果からは、明るく活気のある学校を作っていこうとする気概が見て取れる。また、一人一人の生徒に対して、きめ細かな学習指導、生徒指導ができていることも分かる。
- ・ 保護者評価の結果からは、教職員や生徒の評価で高い評価を得ているものが、低い評価になっているものがある。学校の取組が保護者に伝わっていないことが原因であると考えられる。
- ・ 生徒評価の結果もおおむね良好である。ほとんどの評価項目で、昨年度の評価よりもよい結果が出ている。積極的な生徒指導や学習指導が功を奏したと考えられる。
- ・ 教職員、保護者、生徒に共通して評価が低い項目については、来年度の積極的な取組を図る。また、昨年度に比べ10ポイント以上評価が下がった項目については、抜本的な改革が必要である。

7 学校関係者評価

- ・ 市中学校と比較して、ほとんどの項目で高い評価である。今後も継続した学校経営をお願いしたい。今後の取組としては、肯定的評価の中でも、「とても思う」という評価を伸ばす努力をしていく必要がある。
- ・ 「職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組む」や「各主任・主事を核として、校内組織の活性化が図られている」などでは、極めて高い評価が得られている。このようなよい効果が、生徒にも波及することを期待する。
- ・ 「ICT機器の利用」等については、これからの社会を生きていく若い世代には、必修事項であるので、積極的に指導をして欲しい。
- ・ 共通して低い評価となった「宇都宮の良さ」については、来年度以降に実施される「宇都宮学」に期待したい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 学校運営の重点目標、地域学校園の重点目標の中心に「学力向上」を据え、小中学校で共通して取り組む。
- ・ 「学力向上」は、教員の「授業力向上」から考え、「分かる楽しい授業」の実践を通して、教員の「授業力向上」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。さらに、授業研究会等の実施を通して、「授業改善」や「授業力向上」を文化として根付かせる。
- ・ 生徒と向き合う時間を作り出すために、行事の内容の大きな見直し等の業務改善を行う。
- ・ 学校での教育活動を、広く保護者に情報提供を行い、保護者の理解と協力が得られるようにする。